

ちば経済フラッシュ

「ちば経済フラッシュ」は3、6、9、12月号に掲載します

千葉県経済の動き — 中小企業動向を中心に —

概況

県内経済は、緩やかな回復が続いている。10月は千葉ロッテマリーンズ（以下、千葉ロッテという）の優勝セールなどもあり消費の盛り上がりが見られたが、原油価格の高騰により、コスト増に苦しむ企業も増えており、先行きについては、なお慎重な見方をする先が大勢。

この間、住宅投資は三期ぶりに前年割れとなったが、水準は高い。輸出は三期ぶりに前年水準を上回った。県内企業の05年度設備投資計画額（9月末時点）は、全産業ベースで前年度比▲三・三％減少した。ただ、設備投資を計画している企業のうち前年実績を上回る計画の企業数は六二・一％と半数を超えており、設備投資に前向きな先が多い。千葉県鉱工業生産指数は、一進一退の動きが続いている。

県内小売業では、10月の百貨店売上は千葉ロッテの優勝セールが寄与し、前年同月比増加した。幕張周辺ホテルやスーパー、インターネットショップなどでも優勝記念イベントを実施、盛り上がりを見せた。10月下旬の幕張新都心では日本シリーズ（入場者数約六万人）、東京モーターショー（期間目標・同一五〇万人、ちばYOSAKOI 2005（幕張地区・見物客約二万人）など大規模なイベント開催が重なり、大変な人出でにぎわった。

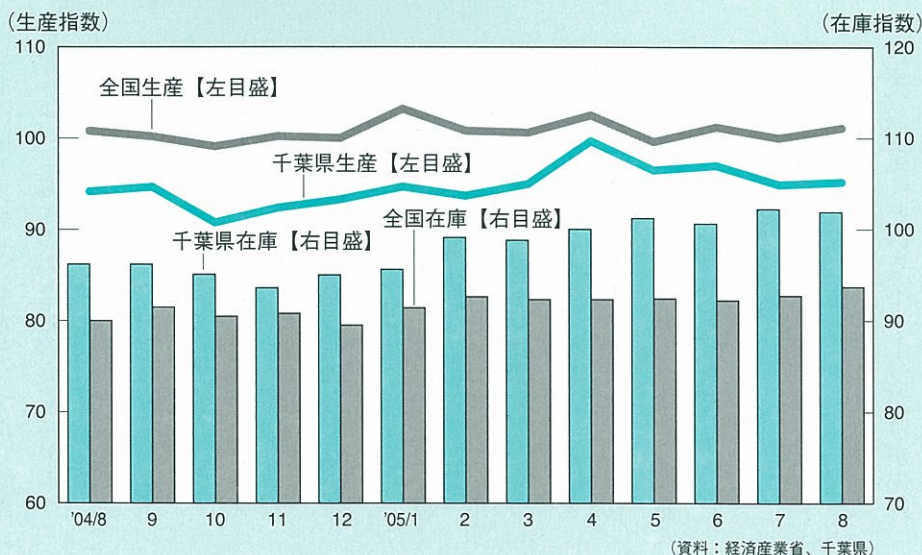
7～9月期の新設住宅着工戸数は、前年同期比▲〇・六％と三期ぶりに減少したが、分譲マンション（同＋五・三％）は好調が続いている。7～9月期の公共工事請負額は同▲十五・八％と五期連続で二ケタ減少した。

雇用面では、千葉県の7～9月期の有効求人倍率（季調済）は〇・八二倍（4～6月期：〇・八六倍）と、およそ三年ぶりに低下した。

県内地価動向を見ると、05年基準地価（9月20日発表）は、前年比下落率が▲四・七％に縮小（同・04年▲八・一％）した。住宅地では浦安市（＋四・〇％）に加え、市川市（＋一・三％）、千葉市美浜区（＋〇・一％）が上昇に転じた。商業地では柏市の二地点と流山市の一点が上昇した。

（酒井）

■ 鉱工業生産・在庫指数（季節調整済、2000年＝100）



消費関連

県内小売業の販売動向は、千葉ロッテの優勝セールで盛り上がりを見せたほか、専門店モールや通信販売など一部の業態では高い伸びを示す先も見られるが、全体としては横ばい圏内の動きが続いている。

すなわち、専門店モールや通信販売では、マーチャンダイジング（品ぞろえ）の強化などから、売上好調な先が見られた。県内百貨店の売り上げも、千葉ロッテ優勝セールが大きく寄与するなど、全体

としては底堅い動きとなっている。一方、県内の乗用車新車登録台数（軽を含む）は、04年夏以降の

新型車発売効果が剥落し、前年を下回っているほか、家電販売では、薄型テレビなどの販売が好調だったが、DVDの昨年のアテネ五輪による売上増加の反動減などが響き、全体ではやや減少した。

この間、館山と銚子では長年同地域の中核商業施設として親しまれてきた百貨店が閉鎖予定にあるほか、蘇我や船橋の大型商業施設も開店後わずか一年以内に閉店や売却に追い込まれるなど、厳しい動きも出てきている。

（関）

食料品

県内食料品メーカーの生産BSIは、二期連続で改善した（05年1～3月期▲十一・二→4～6月期▲九・〇→7～9月期▲一・八）。それに伴い売り上げも改善傾向にあるが、収益BSIは「悪化」超

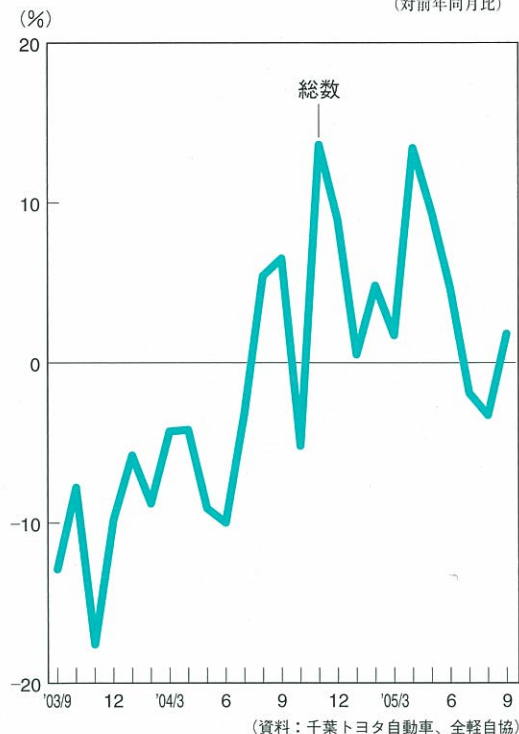
（05年1～3月期▲十五・八→4～6月期▲九・五→7～9月期▲一・〇）が続いている。これは、原油価格高騰に伴う包装資材や運送費などの値上げが続く一方で、一般消費者の低価格志向も根強い

ため製品価格への転嫁が進んでいないこと、などが響いている。鳥インフルエンザの影響により、鶏肉は、中国、タイなど主産地からの輸入禁止が続いており、国内産の鶏肉価格は高止まりしている。さらに輸入可能なブラジル産鶏肉は、EU向け輸出の拡大で需給がタイトになり、仕入価格は前四半期比十五%と高騰し、加工業者の収益は悪化している。

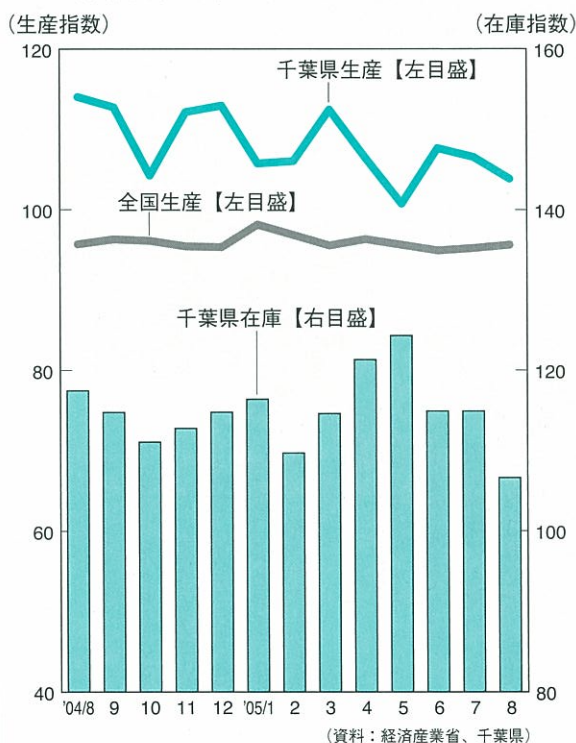
米国、カナダ産牛肉が12月から輸入再開される見通しが強まっているが、供給量が少なく価格の予測が難しいうえに、安全面での不信任も根強いことから、輸入に対しては、慎重な対応が目だつ。

（菅合）

■千葉県乗用車新車登録台数伸び率（軽を含む）
（対前年同月比）



■食料品の生産・在庫指数
（季節調整済、2000年=100）



住宅・建設

7～9月期の新設住宅着工戸数は、前年同期比▲○・六%と三期ぶりに減少したものの、分譲マンション（同＋五・三%）は三期連続、分譲戸建（同▲○・四%）も六期連続でそれぞれ三千戸を超え、高水準での横ばいが続いている。

7～9月期の県内公共工事請負金額は、五期連続で二ケタの減少が続いている。発注先別に見ると、国（同＋六七・八%）は増加したが、都道府県（同▲○・六%）、市区町村（同▲十二・九%）、公

団・事業団（同▲四二・○%）、地方公社（同▲五三・八%）は減少した。

分譲マンションは、団塊ジュニアなどの一次取得者層中心に販売戸数、契約率ともに好調を持続。浦安、市川から千葉市美浜区までの湾岸部の地価は、デベロッパーによる取得熱の高まりから、路線価の二倍で取り引きされた事例もある。8月24日に開業したTX沿線でも用地取得は過熱しており、流山、柏地区ではさらなる地価上昇を予想し、ゼネコンから地元不動産会社に至るまで、先を競って土地の買い占めに動いているとの声も聞かれる。

（荻谷）

機械

県内電気機械メーカーの生産BSIは、六期連続で悪化し▲三一・三となったが、10～12月期の見通しについては六・三（実績比＋三七・六）と大幅改善を見込んでいる。昨年夏以降続いている半導体関連製品の在庫調整は長期化していたが、7～9月期にほぼ終了したとの見方が多い。先行きは、年末商戦に向け生産量は増加するが一時的なもの、との慎重な見方が大勢。

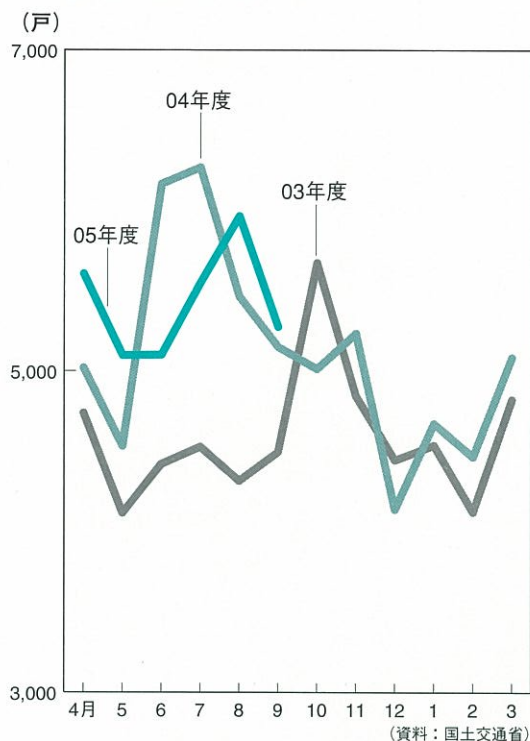
県内一般・精密機械メーカーの

7～9月期の生産BSIは、十五・四と五期連続でプラスの水準。印刷機・粉砕機等の産業用機械は、上場企業など大手からの受注が好調で、近年にない忙しさが続いている。収益面は、好調な受注状況を反映して、増収増益を見込む先が多い。

一方、輸送用機械メーカーの7～9月期生産BSIは○・○だが、高い水準での横ばいとの見方が多い。収益面では、受注がピークの状態の割には、大手自動車・造船メーカーからの原価低減要求が毎年一～三%と非常に厳しいため、増収減益を予想する企業が多い。

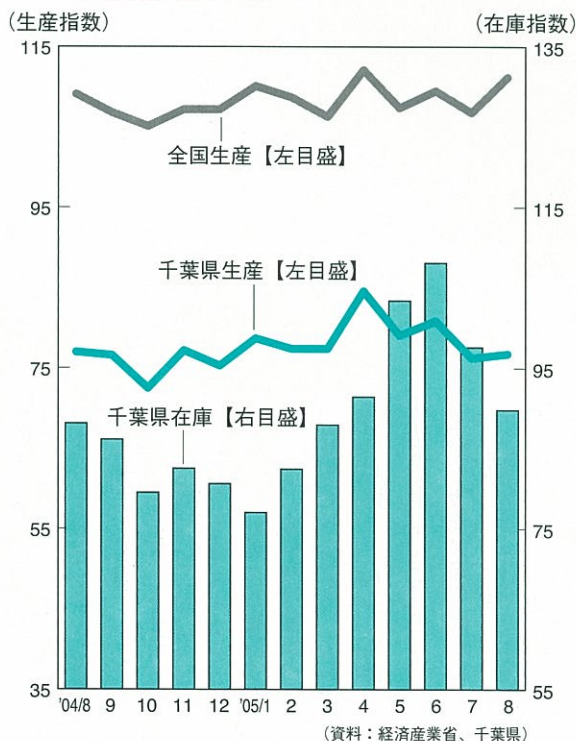
（酒井）

■千葉県新設住宅着工戸数



■機械の生産・在庫指数

(季節調整済、2000年=100)

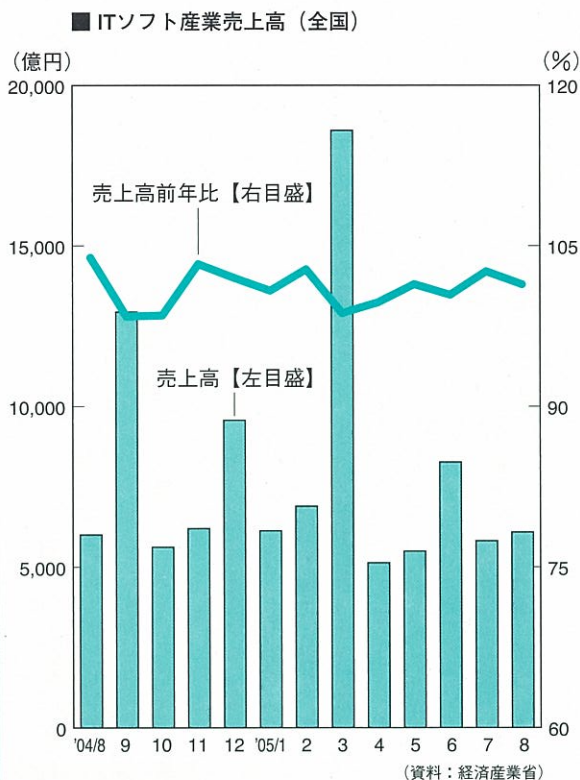


ITソフト

情報サービス業（全国）の売り上げは、四か月連続で前年実績を上回り、順調に推移している（前年同月比…7月+12.8%、8月+1.4%）。千葉県内のIT関連企業四〇社で構成する協同組合の動向調査でも、売り上げ・受注とも増加傾向にある。業況が好調な鉄鋼や自動車、合併・統合が盛んな金融でシステム投資が増加していることに加えて、4月から全面施行された個人情報保護法に関する業務が、順調に推移した。

IT業界は新規参入が比較的容易なため、競争激化により受注単価は横ばいないし低下している。さらに、受注先からの仕様に対する要求が高度化し、人件費の増加要因となっており、収益面では厳しい状況。そのため単純な人件費は中国の協力会社へ委託し、経費を抑える企業もある。

県内IT企業は、受注増加による従業員不足から採用を積極化しているが、システムエンジニア（SE）は定着率が低いうえに、大手志向が強く、知名度の低い県内企業は技術者不足に悩んでいる。（菅谷）



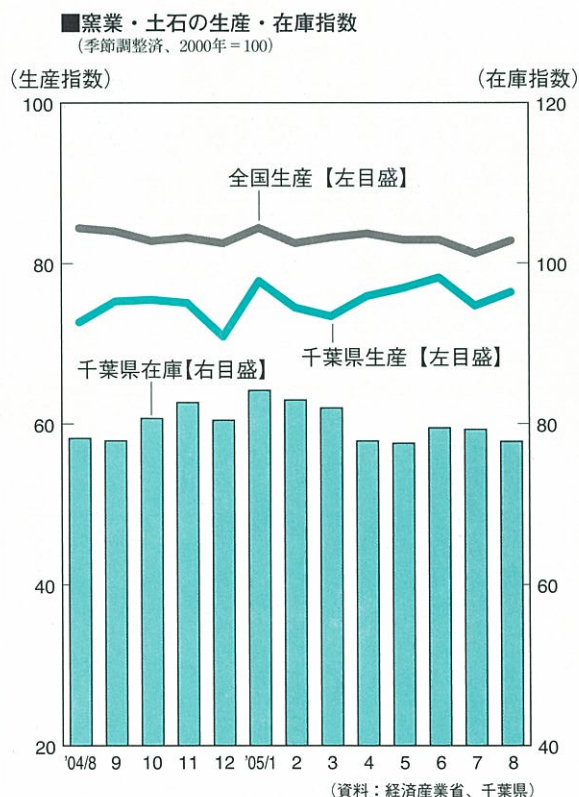
窯業・土石

生コンの県内主要協同組合（北部・西部・中央）の7～9月期の出荷量は大幅に増加し、五期連続で前年を上回った（前年同期比…05年1～3月期+21.4%↓4.6月期+37.3%↓7～9月期+23.9%）。

千葉北部地区（柏・松戸・野田など）では、柏、我孫子エリアのマンション建設が引き続き活発で、出荷量は大幅に増加した（同…+43.7%↓+84.1%↓+63.1%）。千葉西部

地区（浦安・市川・船橋など）でも、浦安を中心にマンション建設が活発で、出荷量は前年を上回っている（同…+14.3%↓+23.6%↓+34.8%）。一方、千葉中央地区（千葉・市原・四街道など）は、蘇我整備地区関連の出荷が落ち着き、一年ぶりに前年実績を下回った（同…+11.6%↓+17.4%↓▲25.1%）。

生コン業界では、セメント、砂利等の値上がりから、昨年4月に製品価格の5%値上げを打ち出したが、非組合員からの安値出荷が続いたため浸透していない。原材料価格は上昇を続けており、値上げ交渉を再開している。（菅谷）



鉄鋼 石油・化学

鉄鋼

7～9月期の県内高炉メーカーの粗鋼生産量は前年同期比微増と、引き続きフル生産の状態。しかし、10～12月期は国内在庫の増加による値崩れ防止のため、粗鋼生産量の減産を予定している。

減産に至る最大の要因は、昨年夏の鋼材不足により卸や加工メーカーが手元に在庫を確保しすぎたことによるもの。今回の減産は値崩れを防ぐのが最大の目的で、需要自体は横ばい圏内で推移してお

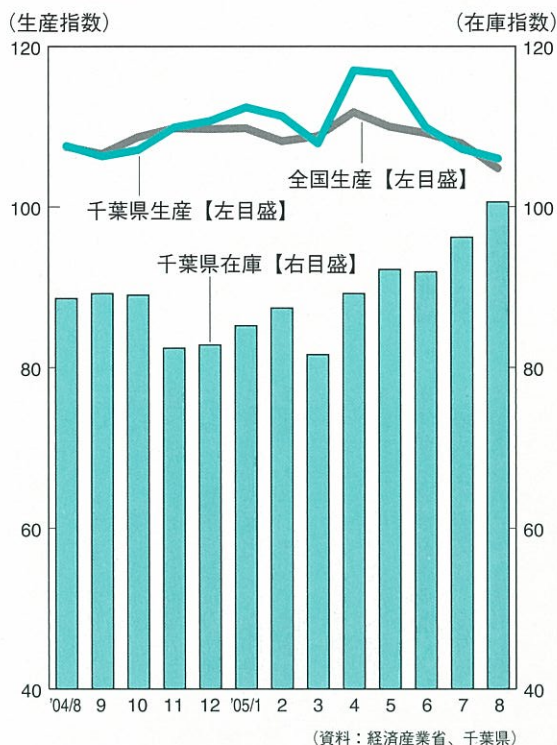
り、過剰在庫が一掃されれば再び増産に転じる方針。
(酒井)

石油・化学

04年春から続いている原油価格の高騰は、すでに自社のみで対応できる水準を超えており、販売価格への転嫁を急いでいるが、思うように進んでおらず、企業収益への影響を危惧している。最終消費者にもっとも近いガソリンスタンドでは、高値を嫌った法人契約の運送業者が都度現金決済で価格の安いセルフスタンドへシフトする動きや、個人でもハイオクガソリンからレギュラーガソリンへのシフトが見られるとのこと。
(酒井)

鉄鋼業の生産・在庫指数

(季節調整済、2000年=100)



農業・漁業

農業

7～9月期の千葉県産主要野菜一〇品目の東京中央卸売市場への出荷は、数量が一万三三三二tで前年同期比+二・六%となったものの、平均単価が一六一円/kg (同▲七・三%)と低下し、出荷金額は二二・八億円 (同▲四・九%)となった。

全国第一位の産出額を誇るナシの作柄はおおむね良好だった。幸水は、本州では千葉県がもっとも出荷時期が早く、味も九州産に比べ良いため市場では高値で取り引

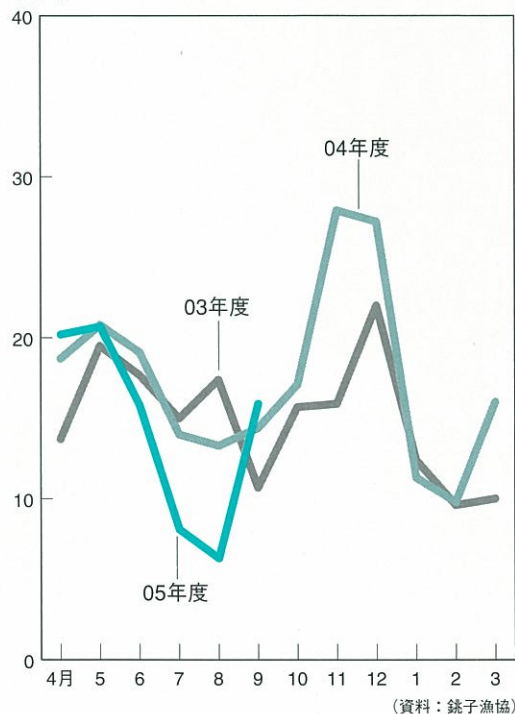
きされる。特にお盆前は帰省時にお土産用として購入するケースが多く、大玉の人気の高い。
(酒井)

漁業

7～9月期の銚子漁港の水揚げは、数量(二万六八九〇t・前年同期比▲〇・四%)は微減であったが、金額(三〇・三億円・同▲二七・〇%)は大幅に減少した。サシマは全国的な豊漁で、平均単価は同▲二八・八%下落した。勝浦漁港では、数量(一四九三t・前年同期比+一二・九%)、金額(三・五億円・同+二・九%)ともに増加した。主力のカツオは二年ぶりの豊漁だったが、ピンチウマグロが不漁で、金額面では依然として低い水準であった。
(菅合)

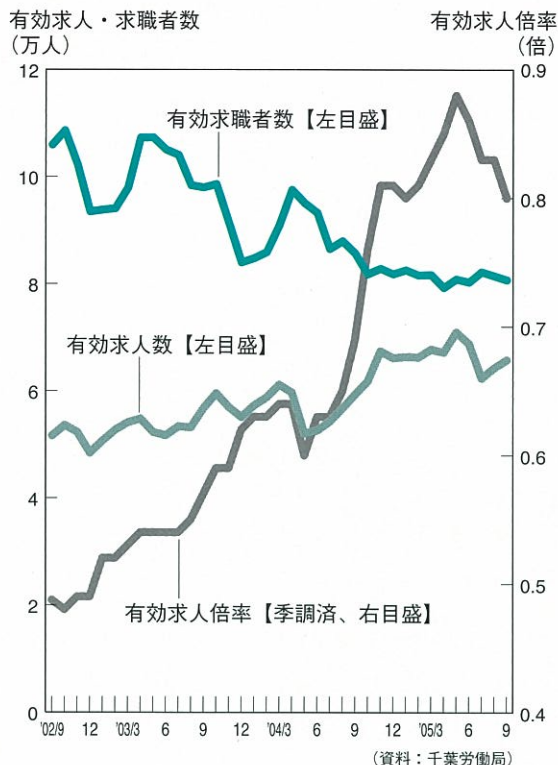
銚子漁港の水揚げ額

(億円)



雇用

■千葉県内労働需給状況



千葉県の7～9月期の有効求人倍率(季調済)は、〇・八二倍とわずかながら悪化し(05年4～6月期〇・八六倍↓7～9月期〇・八二倍)、改善が続く全国との格差が拡大した(全国有効求人倍率・同〇・九五倍↓同〇・九七倍)。雇用形態別には、一般〇・六八倍(前期比▲〇・〇三倍)、パート・一・二七倍(同▲〇・〇六倍)となっており、一部にはパートの採用が難しくなっているとの声も聞かれる。

7～9月期の有効求人人数(季調済、月平均)は、全体で前期比▲五・三%と五期ぶりに減少した。雇用形態別には、一般(同▲四・七%)、パート(同▲六・九%)ともに減少した。有効求職者数は前期比▲〇・七%と九期連続で減少している。

7～9月期の求人の動きを示す新規求人人数(季調済、月平均)は同▲〇・八%の減少。雇用形態別には、一般(同▲二・七%)は二期連続減少したが、パート(同+二・三%)は三期ぶりに増加した。業種別に見ると、卸・小売業、運輸業などで増加したが、飲食店・宿泊業、教育・学習支援業などで減少した。(菅谷)

企業経営 動向調査(BSI)

■企業経営動向調査 売上実績・見通しBSIの推移



05年7～9月期の企業の業況判断(全産業)は、〇・九と二期連続改善し、三期ぶりにプラスとなった。製造業は大企業、中小企業ともに改善し、非製造業では大企業が改善した。先行きの業況判断(全産業)も、三・〇と二期連続で「好転」超となる見込み。

売上実績BSI(全産業)は〇・九(前回比+二・二)と二期連続改善し、三期ぶりに「増加」超となった。製造業(〇・五)、非製造業(一・四)ともに「増加」超となったのは、91年10～12

月期以来十三年九か月ぶり。収益BSI(全産業)は▲五・四で前回比▲〇・四とわずかながら悪化した。製造業は▲八・〇と同+一・三改善したが、非製造業は▲二・五と同▲二・二悪化した。原油価格の高騰等によるコスト増加が収益に影響した。雇用BSI(全産業)は六・八と前回比+一・二改善し、五期連続で「不足」超となった。製造業、非製造業ともに不足感が強まった。

05年度設備投資計画(全産業)は、04年度実績比▲三・三%減少した。製造業では、同+八・〇%増加、非製造業では同▲十二・四%の減少。(菅谷)